

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年3月16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873900724		
法人名	有限会社 万葉		
事業所名	グループホーム ゆうもあ館	ユニット名	すずらん
所在地	〒315-0153 茨城県石岡市下青柳948-2		
自己評価作成日	平成21年10月30日	評価結果 市町村受理日	平成22年3月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年12月2日	評価確定日	平成22年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

柵や塀を造らず、木々や緑に囲まれる環境。 自然を活かした楽しみのある、利用者それぞれの生活の提供に努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

理念で「穏やかさの基本は恵まれた自然環境活用の中にある」と謳っているように、自然とのふれ合いの中で利用者のその人らしさに寄り添うケアを実践している。 重度化した場合や終末期の対応は、医療関係者や家族等と協力してできるだけ利用者の思いや希望にそった最期が過ごせるよう支援している。 管理者はささいなことでも家族等に連絡したり、毎月配布する広報誌に利用者の様子を記した手書きのメッセージを添えるなど、利用者と家族等のつながりを大切にしている。 職員は外部や内部の研修を受講したり近隣のグループホームと交換研修を行い、サービスの質の向上に努めている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作り、毎週月曜日の朝礼時に勤務職員全員で理念の唱和を行っている。さらに、理念を強化するため、毎朝の申送り時に理念の唱和を行なっている。理念は、各ユニットとホールに掲げている。	利用者が住み慣れた環境の中で自分らしく生活することを旨とした運営理念と、利用者一人ひとりに寄り添うことを旨とした介護理念を掲げ、ホールやユニットに掲示するとともに、職員は朝礼時に唱和して共有し実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	フラワーパークでの地域交流を行ったり、利用者との散歩で、近隣の方とお会いする機会が日常的にある。収穫した野菜など近隣の方が、届けてくださる。近隣の中学生による吹奏楽部の演奏会を1年に1度開催している。	小学生や中学生の体験学習を受け入れたり公民館祭りや敬老祝賀会など、自治会行事に利用者は職員と一緒に参加するほか、舞踊や歌、シルバーリハビリ体操、漬物づくり、車椅子介助などのボランティアを受け入れ地域と日常的に交流している。 事業所の納涼祭に地域住民を招待したり、散歩時に近隣の民家でお茶をご馳走になったり野菜を貰うなど、利用者は地域の人々と馴染みの関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民の方へ、認知症サポーターの説明と参加を呼びかけ、地域包括支援センターによる認知症サポーターの研修が実践できるよう支援行なった。また、職員も参加を行なっている。在宅で困難なケースや、やむ得ず急な入居希望の方の相談に対し、可能な限り対応できるよう話し合いをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会で前回の評価の報告を行なった。	運営推進会議は家族等や民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、事業所職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用状況の報告や活動報告、意見交換を行い、事業所への理解が深まっている。 会議で出た意見や助言をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営者は市担当者に相談したり、要望を聞いてもらうとともに助言を受けるなど、サービスの質の向上に努めている。	管理者は市担当者を訪問したり電話などで密接に連絡を取り合うとともに、状況調査票でホームの空き状況の報告や生活保護に関する書類を提出するほか、市主催の研修に参加するなど連携を図り協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について全職員で話し合い、マニュアルを作成した。玄関の施錠を含め身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。身体拘束廃止についての内容は、ホールと職員休憩室に掲示し、周知するよう伝えている。	事業所は身体拘束排除を表明するとともに、ホールなど数か所に身体拘束排除に向けた啓発のポスターを掲示している。全職員が身体拘束の内容とその弊害を理解し、玄関の施錠を含め身体拘束は一切していない。利用者の外出を察知した場合は職員が同行するなど、利用者の意思を尊重する支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について全職員と話し合い、マニュアルを作成した。事業所内で虐待と思われるケースがあった場合、直ちに責任者が事実関係の確認を行い、改善、防止に努める。外泊時に対しても同様に対応する。職員休憩室に、虐待について具体的に記載のある内容を掲載している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用してはいないが、御家族からの相談や必要に応じて、管理者間で話し合いを持つ。もし活用が決定した場合には、会議で職員へ報告を行なう。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容については、十分に時間を取り丁寧に説明を行なっている。入居後でも、相談しやすい関係を築き可能なかぎり要望に対応できるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に対しては、出来るだけ会話や行動を共にし、利用者の行動や言動から思いを察する努力をしている。利用者からの苦情や意見は、各ユニット内でその都度話し合いを持っている。御家族に対しては、ご面会時や電話連絡で要望等を伺っている。玄関に投書箱を設置している。日頃から話しやすい関係を築けるよう努めている。	職員は利用者からは日常のふれ合いの中から、家族等からは電話や面会時に意見や要望を聴き、出た意見等を運営やサービスの質の向上に活かしている。 意見箱を玄関に設置しているが、投函された実績はない。 重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記するとともに、ホールに掲示している。	行事に家族等の参加率が高いので、率直な意見を出せる場として家族会の発足が望まれる。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の職員会議時に、職員の意見や提案を聞いている。職員間の課題や問題については、会議の場だけではなく休憩時間を利用して聞くなど、日常的に話をしやすい環境づくりを心がけている。また、職員一人ひとりと話し合う機会を設け、課題や問題が改善できるよう努めている。	運営者や管理者は職員が意見や提案を気兼ねなく出せる関係を築くとともに、意見等を聞く機会を設けている。 出た意見等は「取りあえず試しにやろう」という方向で検討し、実践につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直し、職員の業務達成度表の見直しを行なった。万葉評価表を作成し職員一人ひとりの努力や功績を評価し、やりがいが持てるよう、項目ごとに金額を決め支給している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	職員の評価表で、ケアの実際と力量の把握を行い、必要に応じ研修へ参加できるように努めている。職員会議時に勉強が必要なテーマを決め研修会を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣のグループホームと、職員を受け入れ研修を行なっている。また、必要に応じてその都度情報交換を行なっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能なかぎり、利用者ご本人に来ていただき説明を行なっている。希望があれば体験入居もできる。サービス利用前でも、不安や要望等がある時には、いつでも相談に乗れるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用にあたっては、御家族の思い、ご本人の思いを理解するため、話し合う機会を多く持つよう努めている。入居後も家族関係が良好に保てるよう、来訪時や電話連絡をこまめに行い信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅支援センターからの紹介の場合は、担当のケアマネと御家族等と相談して、支援の見極めが出来るよう支援している。個人でご相談の場合、介護保険のサービスについて説明を行いながら、ご本人、御家族の要望等を把握した上で、入居後のご本人の支援をどうしていくのか、課題となる事に対し早期に対応できるように職員間で話し合うよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という一方的なケアではなく、家事全般など利用者の暮らしと、とらえるように支援している。共に支えあう関係作りを心がけ、経験豊富な利用者から、教えていただく場面を多く作れるよう努めている。 (掃除の仕方や、野菜の収穫の仕方など)		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いに寄り添いながら、利用者の日頃の様子を報告し情報を共有している。利用者には課題がある時は、共に考え、共に支えていけるよう相談を行なっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出、外泊の希望を可能な限り支援している。地域に住んでいる知人の来訪や、遠方の友人や知人からの電話や来訪が、定期的にある方もいる。今年はインフルエンザの流行に伴い、面会は身内の方に制限している。	利用開始時に利用者や家族等の意見や要望を聴き、これまでの生活が継続できるよう支援している。 職員は駅までの送迎や食事の提供などで、近隣や遠方からの親類や友人の来訪を支援したり、電話や手紙のやり取りなどで、利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人との関係が途切れないよう努めている。 家族等と連携を図りながら外出や旅行など利用者の馴染みの場所への訪問を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係の把握に努めている。気の合う同士での、外出などを行なっている。職員間でも情報の共有を図り、利用者同士の人間関係が円滑にいくよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が他事業所へ移られる場合、細かな情報提供をおこなっている。長期入院となられた場合、出来る限り相談が乗れるよう訪院したり、御家族と連絡が取れるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、利用者にとって何が必要なのか、どう思っているのか表情や言葉を聴き逃さないようにしている。困難な場合は、行動や表情、ご家族や関係者から情報を収集し把握に努めている。	利用開始時のアセスメントで生活歴を把握するとともに、日々の支援の中から得た情報を加えて記録し、職員で共有している。 自家菜園の収穫や洗濯物たたみ、行事の下準備、縫い物、塗り絵、歌など利用者のやりたい時にやりたいことができるよう支援している。 言葉での伝達が困難な利用者は目を見て話しかけ、手を触れたり歌を口ずさむなど五感に訴える支援の中から気持ちを感じ取るよう心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴は、ご本人とご家族から伺い把握している。折に触れご本人に伺ったり、来訪時に伺っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活のリズムを把握できるように職員間で情報の共有をしている。行動や表情など小さな変化に気を配り、その人全体の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族から、来訪時や電話で得た要望等や医師の往診時の意見を職員間で話し合い、介護計画作成や見直しに活かせるようにしている。利用者の心身の状態が変化した時も、期間に関係なく介護計画の見直しを行っている。	介護計画は利用者や家族等の希望を取り入れ3ヶ月から6ヶ月に1回見直すほか、心身の状態に変化が生じた場合はその都度見直し、家族等の確認を得ている。 介護支援経過を記録し月1回モニタリングをするとともに、全職員で共有している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録の他に、利用者の情報を職員間で共有できるノートを作っている。日々の変化にそった内容が多いので、日々のケアの見直しになっている事もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ターミナルケア、外泊、外出の支援、通院介助、ご家族来訪時の駅までの送迎など状況や希望に応じて支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回、ボランティアによる健康体操を行なっている。例年ならば、中学生の吹奏楽の演奏会の発表会への参加やボランティアによる踊りの会、行事参加をお願いしていたが、インフルエンザの流行に伴い、現在は中止している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は基本的に個人の希望に添って決めている。協力医療機関での週1回の往診があり、相談もできる体制をとっている。	週1回協力医療機関の往診と訪問看護があり、利用者の健康管理を支援している。家族等の協力を得てかかりつけ医に受診するほか、職員が付き添い受診した場合は結果を家族等へ報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	石岡医師会訪問看護ステーションと医療連携を結び、週1回の訪看がある。緊急時や介護職で判断が出来ないことに関して、随時連絡が取れるようになっている。利用者の変化がある時は、看護師へ報告行い指示をいただいている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院患者が出た場合にそなえ、医療関係者へ連携をお願いしている。病院等で行なわれる研修へ参加している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応、終末期ケア対応指針を元に、職員間で話し合いをもっている。本人、家族の意向をふまえ、主治医、看護師の意見や指示を仰ぎながら、ホームとしてどこまで対応できるか見極めながら取り組んでいる。	重度化した場合や終末期の方針を明文化し、契約時に利用者や家族等に説明するとともに確認を得ている。 利用者の希望にそった最期を過ごせるよう、医療関係者や家族等、職員が一丸となって支援に努めた看取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当のマニュアルをいつでも職員が読めるようにしてある。夜間の緊急対応については、マニュアルを作り職員と話し合っている。急変時には、管理者へ連絡をし、医師へいつでも連絡がとれる体制になっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行なっている。自主防火点検を行い、避難経路の障害物撤去や避難経路について、職員、代表者と話し合っている。	消防署指導のもと本年度は1回避難訓練を実施している。 災害時には地域の消防団の協力が得られる体制となっている。 倉庫に米や飲料水などを備蓄している。	夜間を想定した避難訓練を本年度中に1回実施することが望まれる。 避難訓練に地域住民の参加が得られるよう働きかけることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声かけには特に配慮している。利用者ひとり一人に合わせた言葉かけと対応を心がけている。面会簿は一人1枚とし、個人情報が出漏れないよう配慮している。	職員は利用者の尊厳を大切に考えながら利用者一人ひとりに合わせた支援をしている。 個人情報は秘密保持を原則とし、必要時に家族等の同意を得て使用するなど漏洩防止に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者と共に過ごす時間の中で、本人に決めてもらえる場面や環境、興味を持ちそうな事を考えながらケアをおこなう事を心がけている。意思疎通が困難な利用者に対しては、表情や行動からくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人がその日をどう過ごしたいのか把握し、希望に添えるようにしている。入浴や食事など、時間は決まっているが、その中で可能なかぎり本人の希望を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまで着ていた洋服を持ち込んでいただき、朝の着替えは基本的にご本人に決めていただいている。インフルエンザの流行の為、外出しての理容店の使用は控えている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方と畑の野菜を栽培、収穫して調理の仕方を相談している。調理の下ごしらえや、後片付けをおこなうなど利用者の持てる力を存分に発揮している。	芋の皮を剥いたり野菜を刻むなどの下準備や下膳、食器拭きなどを利用者と職員が一緒にしている。 事業所で収穫した野菜をふんだんに取り入れ、ウッドデッキで食べる弁当や庭で行う芋煮会などは利用者の楽しみとなっている。 職員は利用者の食事介助を行うため利用者とは別に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表の記録や、必要な方のみではあるが水分摂取量の記録をつけ職員が情報を共有できるようにしている。提供量や食事形態は利用者の状態をみて、調節している。体重増減の把握や嚥下機能低下時の対応も、その都度検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合ったうがいや歯磨きの声かけと介助を行なっている。希望や状態によって歯科受診を行い、専門的意見を仰いでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録をつけ、利用者の排泄パターンの把握に努めている。基本的に排泄はトイレでおこなうこと、排泄の失敗を減らせるよう、その方にあった、時間と声かけでおこなっている。	職員は食材選びから調理法、食事や水分の摂取量、利用者の日中の活動状況などを勘案して便秘の予防に努めるとともに、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録で排便の間隔の把握と、利用者がトイレに行った後に、確認を行なっている。便秘予防の為、食物繊維の摂取や運動、水分補給に努め、なるべく自然に排便できるように心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の方が、ゆったりと楽しく入浴できるよう、順番や時間を考え行なっている。入浴拒否がある場合は、その理由を考え、不安を取り除けるよう努めている。	入浴は1日おきと決まっているが、風呂は毎日沸かすため利用者の状況や希望にそっていつでも入浴ができる体制となっている。 重度化している利用者で浴槽に入れない場合は、シャワー浴で対応している。 菖蒲湯や柚子湯、入浴剤などで変化をつけ、利用者が入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に安眠できるように、日中は出来るだけ動いて過ごせるようにしている。寝付けない時には、その原因は何か職員間で話し合いをおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬情報は、個人記録にファイルし職員が把握できるようになっている。薬内容が変更になった場合、申し送りノート及びケース記録に記入し、飲み忘れや副作用について注意を呼びかけている。服薬介助を行なう職員を固定し、誤薬、飲み忘れの無いようにしている。体調に変化が見られるときには、主治医へ連絡と相談を行い、必要な場合は内服の中止や処方指示をいただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの持てる機能の把握に努めている。個人に合った出来る範囲での作業をしていただいている。農作業や掃除、洗濯など。気分転換の為、フラワーパークに行ったり、お芝居見学に行っている。ただし、9月よりインフルエンザの流行に伴い、人ごみへの外出は控えている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日により、希望で散歩に出掛けたり、ドライブをして季節を肌で感じられるよう支援している。旅行は、御家族の協力でおこなっている。インフルエンザの流行に伴い積極的な外出は控えている。	利用者は日常的に事業所周辺を散歩している。 庭や畑、ウッドデッキに自由に入りができるため、利用者が気軽に外気浴を楽しめる設計となっている。 利用者一人ひとりの希望にそって日用品や洋服などの買い物に出かけられるよう支援をしている。 フラワーパークや筑波山、菊祭りに出かけたり健康ランドでの芝居見物など、家族等やボランティアの協力を得ながら外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族とご本人と話し合い、希望にそって所持できるよう支援している。無くしてしまったり、あげてしまったり、しまい忘れてしまったり、トラブルがあることを説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば支援している。遠方の知人からの電話や手紙が届く方もいる。インフルエンザの流行もあり、電話での連絡が増えてきている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間から草木が植えられた庭を見ることができ、山も見えるので季節の変化を肌で感じることができ。調理の音や臭いがしすぎないように配慮している。室内の飾りつけは利用者の作品を飾ったり、一緒に相談しながら行なっている。	リビングから一望できる裏庭は小高い山になっており、春には一面に菜の花が咲き秋には紅葉が楽しめる。 大根やブロッコリー、ほうれん草、里芋などを栽培している畑は、利用者と職員が作業や収穫を共にする場となっており、五感を刺激したり季節の移り変わりを感じることができる。 リビングや廊下などあちらこちらにソファや椅子を設置し、利用者の居場所づくりに工夫するとともに、移動の手助けとなっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキやホールに座るスペースを作ったり、庭にもベンチを設置しており、おのおのが自由に過ごせる空間の提供をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置は個人の希望や使い勝手を考え、ご家族と相談しながら行なっている。使い慣れた寝具の持込、好みの色を取り入れている。家族の写真や好きな絵、作品などを飾っている。	利用者は居室に家族等や若い頃の写真、過去に収集した馴染みの物品や位牌などを持ち込み、居心地よく暮らせる場所となっている。 一般用ベッドや介護用ベッドを使用したり畳敷きにするなどで、利用者一人ひとりの好みや生活習慣にあった居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋に写真や名前を掛けたり、トイレにも表示をつけている。鏡の大きさに配慮し、必要な所には、目隠しシートを貼るなど、混乱防止に努めている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム ゆうもあ館

作成日 平成22年3月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	◎運営に関する利用者、家族等意見の反映 行事に家族等の参加率が高いので、率直な意見を出せる場として家族会の発足が望まれる	行事を利用した、家族会の発足を図る。	納涼祭は、ほとんどの家族が参加されるので、納涼祭を始める前に家族会を行う。	H22年3/15 ～ H22年9/30迄
2	13	◎災害対策 夜間を想定した避難訓練を行っていない。	夜間を想定した避難訓練を実施する。	夜間の緊急連絡網を使う。 夜間の避難訓練を計画して実行する。	H22年3/15 ～ H22年3/31迄
3					
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。